

千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
1	小河原委員	施策展開で「やる」という方向性は出ているが、実現するためにどうしていくのかを、市民がどれだけ理解するかにかかっている。市民が目を通すのは具体的な部分であり、市民の果たすべき役割を、市民がもう少し理解しやすい文章構成・表現にすべきである。	1 (1)
2	木村委員	「まちづくりを支える力」が重要であり、それぞれの「施策の柱」に、各主体の役割を明記しておくとい。	1 (1)
3	轟部会長	「市民とともに」といったフレーズは様々な箇所で出てくるが、書き方をもう少し工夫するとよい。	1 (1)
4	依田委員	現状と課題について、課題だけが書かれており、施策がないものがある。また、現状分析の中で原因が整理されていない。現状とその原因、さらにあるべき姿があつて課題があるという流れで整理すべきである。	1 (2)
5	轟部会長	学生の教育の面からも地域との連携はあつたほうがよい。防災などに限定されず、まちづくりの面でも、千葉大などの学生の力を活用するという視点は重要。	1 (1)
6	轟部会長	地域コミュニティの強化は重要であり、安全・安心にとどまらず、まちづくり全体として必要。	1 (1)
7	轟部会長	「3-5」に記述があるとおり市民の力がこれからすべての施策において必要になるという考え方だが、それが各分野でとところどころに薄く書いてある印象。多くの関心があるところなので、主体間の関連付けも含めて書けたらよいと思う。	1 (1)
8	轟部会長	全般的に、あり方を書いているため、具体性が不足している。書きこめるところは書き込んでほしい。	1 (3)
9	轟部会長	現在の財政状況を考慮し、自然環境の部分に関しては「金をかけずにできることをどんどんやる」といった考え方を強調するという点も検討してほしい。	2 (2)
10	西山副部会長	自然や海辺の創出、環境保全・創造活動も含め、市民の関わり方を、具体的なライフスタイルの観点から推し進められるような記述ができるとよい。	2 (1)
11	轟部会長	「1-1」で、緑としての、地域の農地をどうとらえるかについて記述があるとよい。	2 (3) ア
12	轟部会長	「1-1」について、市街化調整区域をどう捉えるかという課題がある。方向性4の集約型都市構造とセットで考える必要があるが、開発を抑えていくなどの適正な運用を施策展開の中で見えるようにしたほうがよい。	2 (3) イ
13	依田委員	里山の保全の一方で、公園の話もある。緑被率が減少してきている中で、農地・里山・山林をどう確保し、市街地の緑をどう回復するのか、この両面のスタンスが重要である。	2 (3) ウ
14	斉藤委員	農業を維持しなければ、「1-1」の豊かな自然を守るのは不可能である。市民に農業を理解してもらうことが必要であることから、たとえば、農業の多面的機能を数値化して、「1-1-1」について、農業の価値や多面的機能を市民にわかりやすく伝えることが重要である。	2 (3) エ (ア)
15	鶴澤委員	地域における、谷津田や里山の保全の担い手は減少してきている。連合傘下の団体で継続的に取り組んでいるところもあり、「1-1-1」の3項目目の「市民とともに取り組みます」について、いろいろな団体に声をかけるようにしてほしい。	2 (3) エ (イ)
16	金谷委員	「1-1-1」について、花見川の記述がない。周辺環境や水質面で大事であり、大いに活かしていくべき。	2 (3) エ (ウ)
17	斉藤委員	「1-1-1」について、農業の維持には様々な方法があるが、たとえば、市民農園を農業経営者がやろうとしても、調整区域にはトイレも駐車場も設置できず、交流が持てない。このままでは緑の保全と活用は困難であるため、「許認可の緩和」を具体的に進めるべき。	2 (3) エ (ア)
18	斉藤委員	JAでは認定農業者を中心に約240名について、維持や大型化のサポートをしており、いずれ法人化の方向にもっていくことも考えている。農業の担い手不足についても「1-1-1」でしっかり記述してほしい。	2 (3) エ (ア)
19	金谷委員	幕張新都心に来て何も無いのですぐに帰ってしまうという話をよく聞く。幕張新都心に来た人たちが夕方に飲食できる施設をつくるなど、「1-1-2」のいなげの浜の活性化について、工夫しなければならない。	2 (3) オ (イ)
20	木村委員	「1-1-2」はハード面で、P92・93「5-1-1」はソフト面中心の印象だが、市民の満足度を高めるため、ソフトとハードの両立が求められてくると思うので、「1-1-2」でも、どういうことをやっていくのか、もう少し具体的に記述してほしい。	2 (3) オ (ウ)

千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
21	猿田委員	モーターショーや大塚家具の撤退などにより低下した、幕張新都心の魅力を向上させることが大切であり、特に航路整備による船舶の停泊、ヨットハーバー、フィッシャーメンズ・ワーフなどウォーターフロントの活用は大事である。航路整備により、九都県市首脳会議で行っている「21世紀の船出プロジェクト」がうまく使えるし、「工場萌え」などの観光も流行っており、幕張から京葉工業地帯の夜景を見に行ったり、大島まで行くことも考えられる。これらのことから、「1-1-2」について、幕張新都心のウォーターフロントの活用をもっと積極的に行うべきである。	2 (3) オ (イ)
22	轟部会長	「1-1-2」でいなげの浜だけが例示されているのが気になる。もう少し例示があってもよい。	2 (3) オ (イ)
23	西山副部会長	「1-1-2」について、イメージがよくわからない。人工海浜が自然資源なのか観光資源なのかを明確にする必要がある。	2 (3) オ (ア)
24	櫻井委員	「1-1」の現状と課題で、「42kmに及ぶ海岸線」とあるが、どれだけ市民が親しめる海岸線があるのか疑問である。検見川の浜について、レジャーのイメージもあり、利用したい人も多いと思われることから、「1-1-2」に記述願いたい。	2 (3) オ (イ)
25	西山副部会長	人工海浜が自然資源であるならば、環境教育・自然共生型ライフスタイルなど市民がかかわれるしかけをにおわせる書き方をして、方向性がもう少し見える形にできるとよい。	2 (1)
26	村木委員	「1-2」の施策の展開は、公園緑地をつくることが中心で、管理については、「1-2-1」でパークマネジメントが書いてあるが、いかに管理するかが重要であり、施策の展開の中で別立てとしても良い。	2 (4)
27	西山副部会長	「1-3」の内容は重要ではあるが、総合的と言いながら「1-4」では総合的になっていない。低炭素社会、循環型社会の後、3項目目に自然共生型ライフスタイルの推進と項立てをした方がよい。	2 (5) ア
28	花澤委員	「1-1」「1-2」は理解できるが、「1-3」「1-4」で急に話が地球規模に大きくなり、構成が難しい。むしろ、千葉市の地の利を活かして観光振興や企業誘致を行うという、お金を落とすストーリーにすべきである。	2 (5) ア
29	轟部会長	「1-3」と「1-4」は、内容的には重なっており、統合も検討すべきである。	2 (5) ア
30	依田委員	「1-3」と「1-4」は内容的に同じである。「1-3」に「総合的に計画的に進める」とあるが、これは環境に限らず全体に共通して言えることであり、違和感がある。書くならば、もっと違うところでしっかりと書くべき。	2 (5) ア
31	宇佐見委員	環境問題への対応について、たとえば、UR賃貸住宅でLED電球への交換によるCO2削減を検討しているが、住民の自主性に拠るところが大きい。また、現在、おゆみ野において、公園や雑木林を住民が自主管理するなど「まち育て」の活動を行っている。 「1-3」の施策展開は、主に市の施策を充実しましょうという書きぶりになっているが、市民、団体、企業などのそれぞれの主体がどのように活動すべきなのかなど、その役割について、もっと盛り込んでもよいのではないか。	1 (1)
32	池田委員	不法投棄問題について、「1-4-2」で読み取れないこともないが、「1-3-2」で文言または項目を追加してはどうか。	2 (5) イ (ア)
33	木村委員	「1-3-2」について、空き缶や吸い殻などのごみがなくなっていくことが重要であり、「まちなかの景観を捉えた環境保全」を記述すべきである。	2 (5) イ (イ)
34	轟部会長	「1-4」のグラフ(温室効果ガスの総排出量:千葉市)について、産業部門の占める割合が大きいので、産業部門のより一層の削減も盛り込めるとよい。	2 (6) ア
35	花澤委員	「1-4」のグラフ(温室効果ガスの総排出量)は産業部門が悪いように誤解される危険性が高い。 千葉市経済を基盤から支える電力会社や石油プラントなどの産業部門については、たとえば千葉市の電力会社が供給する電力は、地元への供給は1/3程度であとは東京都に供給しており、あるいは鉄鋼1トンあたりのCO2排出量は、中国は日本の8倍、ロシアは10数倍という状況である。グローバル経済の中での競争を阻害するような政策は行ってはならない。	2 (6) ア
36	村木委員	「1-4」の温室効果ガスの総排出量の図について、産業部門ばかりが目立つが、産業部門は原単位ベースの削減を進めているはずである。総排出量を比較するなら全国とではなく、北九州市や川崎市など、社会構造の似ている都市と行うべき。	2 (6) ア
37	轟部会長	エネルギーについては、モデル地区をつくり、その地区における先進的な取組みや、既存地区での取組みも盛り込めるとよい。	2 (6) イ
38	村木委員	「1-4」のグラフ(温室効果ガスの総排出量)で産業に隠れてしまっている家庭・業務部門や、面的なエネルギーの利活用に関する記述がみられない。他都市を参考に、街区レベル・地区レベルでの再生可能エネルギー・未利用エネルギーの活用について記述すべき。	2 (6) イ
39	鵜澤委員	「1-4-1」温室効果ガスの削減目標にまだまだ達しない状況の中で、自動車交通に起因する温室効果ガスの削減が重要であり、公用車の低公害車への買い替えなど、財政状況は厳しいと思うが、市が率先してやるのが重要である。	2 (6) ウ (ア)



千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
40	村木委員	「1-4-1」2項目目については、自動車の排出ガスの話か、それとも違うのか。自動車の排出量は、トラック協会のヒアリングでも下がってきており、むしろ車の滞留が問題。車を流すための取組み、もしくは排気ガスが溜まってしまいう地区における空地の確保や高層建築物が建たないようにするなどの規制とあわせて実施することを考えるべき。	2 (6) ウ (イ)
41	轟部会長	「1-4-1」について、渋滞解消は重要だが、渋滞をなくすと自動車利用が増える側面もあるため、注意が必要。公共交通への転換も視野に入れるべき。	2 (6) ウ (イ)
42	西山副部会長	地域コミュニティの連携強化は重要。安全・安心だけではなく、防災や消費生活、住環境でも同様である。方向性3で触れられているが、安全・安心や生活という視点から方向性4で触れられてもよい。	3 (1)
43	宇佐見委員	現在、高齢者の孤独死の問題が顕在化している。団地でも孤独死が多く、部屋の中に人感センサーをつけて、NP Oに管理してもらい、全然動かなくなると通報するという取組みを行っているところもある。ハードとソフト、誰がやるかという問題もあるが、超高齢社会を目前に控えた中で、「4-1」で書いておく必要があるのではないか。	3 (3) イ
44	櫻井委員	大学生の活力導入を考慮してはどうか。防犯については千葉大学の園芸学部、防災では淑徳大学の消防団などが活動しており、このような学生の力を「4-1」に明記してはどうか。	3 (3) ウ
45	櫻井委員	「4-1」について、子どもたちへの交通安全教育や防災教育などの記載もあってよいのでは。	3 (3) エ
46	伊東委員	市がやることのほか、住民がやることがある。地域コミュニティの連携強化を支援することが大事であり、記述すべきではないか。	3 (1)
47	伊東委員	直下型地震について記述があるが、千葉市から東京に相当数の通勤者がいる中で、帰宅困難者の問題がクローズアップされており、バックとして持っておいていただきたい。	3 (3) オ
48	鵜澤委員	有事の際に備え、連合では毎年、首都圏帰宅困難者訓練を行っており、東京・神奈川・千葉・埼玉で約700名が参加している。このような個別の取組みや、他の組織と行政が一体となった取組みについても、計画で必要ではないか。	3 (3) オ
49	小河原委員	自転車と車と人の分離について、市としては具体的な考え方を持っているのか確認したい。	3 (3) ク
50	小河原委員	「4-2-1」2項目目で「連携・支援などを行います」、「4-2-2」2項目目で「市民主体の計画的なまちづくりを促進します。」と「お手伝いします」という感じで書かれているが、これだけで本当に進んでいくのか。どういった人たちが具体的に参画し、どういう組織で実現していくかが重要。組織のグルーピングや段取りなど、もう少し記載があればよくわかるのではないか。	3 (4) イ
51	鵜澤委員	「4-3」の現状と課題に「交通の整流化」とあるが、市でやることと、市だけでは解決できないことがある。表現は検討が必要だが、「4-3-2」に「近隣市と連携し・・・」などとして書いてはどうか。	3 (5) ウ
52	轟部会長	近隣市に加え、県や国との連携も重要。「4-3-2」では、整流化に関する記述は少しあるが、バリアフリー化と一緒に書かれており、少し違う話ではないかと思う。検討願いたい。	3 (5) ウ
53	轟部会長	「4-3」では公共交通と道路が別々に書かれているが、交通手段の適正な使い分けと連携が重要であり、様々な交通手段をすべて含めた、有機的なネットワークが必要である。バリアフリーの考え方にもあるが、モードを超えたネットワークについて触れてほしい。	3 (5) イ
54	金谷委員	方向性4のタイトル「人・モノ・情報がつながる」という表現は大事であり、柱として、ICTの活用は大きい。この10年、インターネットや携帯電話、最近では電子書籍など、ICTの革新性が大きな力を発揮している。その意味で、「4-3-4」のタイトル「ICTを活かした利便性の向上」は、範囲が狭すぎるのではないか。 「ICTを積極的にやるんだ」という姿勢を強調すべきである。	3 (5) エ (ア)
55	金谷委員	「4-3-4」について、福祉・介護の観点からも、コストや人手がかなりかかる部分であり、コストセーブやサービス性の向上を図るうえで、ICTが重要な意味を持つてくる。	3 (5) エ (イ)
56	金谷委員	「4-3-4」について、サービスや利便性の向上、使いやすくするために、市民や市内のICT企業の力を活用して、市と一緒に改善を図っていくことが重要。	3 (5) エ (ウ)
57	金谷委員	幕張新都心について、都市の魅力を高める大きな柱とするため、「5-1-1」に確り記述することを提案します。 例えば ・ 科学技術都市戦略の柱として位置付け、現存のICT企業群や、ベンチャー企業群の集積度を一段と高め、オフィス型産業都市としての魅力を高めしていく記述。 ・ 幕張メッセのイベント(国内最大のICT/エレクトロニクス展、科学機器展、東京ゲームショウなど)と、千葉市の企業群、或いは市の観光等との連携を一層深め、相乗的な効果を発揮させていく記述。集客力の向上と千葉市産業の振興の為に。 ・ 東京から海浜幕張への交通の利便性を向上(昼間の快速の増発など)させ、メッセ・イベント参加や東京へのアクセスの容易性を図る努力をする記述。	4 (1) ア (イ)
58	宇佐見委員	「5-1-1」について、各都心の地域資源を磨く取組みが当然あるはずであり、地域資源への気づきと磨きが、3都心の連携の中であってもよい。もう少し指標になるようなものが書かれてもよいのではないか。	4 (1) ア (ウ)

千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
59	轟部会長	方向性4に書くべき話かもしれないが、拠点・住宅地・田園部分も含めた連携について触れてもよいのではないか。また、方向性5では、拠点間の連携について役割分担の話と物理的に結ぶ話を記述してもよいのではないか。	4 (1) ア (ウ)
60	宇佐見委員	「5-1-1」について、千葉都心と幕張新都心の間には、海浜ニュータウンという大居住ブロックがあり、拠点間の連携を考える上で、この空間をどう位置づけ、機能させるかが大事。また、都心間の連携や生活機能拠点の連携についても踏み込んだ記述が必要である。	4 (1) ア (ウ)
61	木村委員	「5-1-1」に3都心に関する記述があるが、p34における拠点の形成のほう詳しく書いてあるため、関連した記載ができればと思う。	4 (1) ア (エ)
62	木村委員	「5-1-2」について、成田や羽田の動向を踏まえ、また千葉市に住む外国人も重要になってくる。「4-4-1」で国際化に触れているが、千葉市に住んでいる外国人が、都市の国際性の向上にかかわっていくのが重要であり、連動した記述が望ましい。	4 (1) イ (ア)
63	轟部会長	「都市の国際性の向上」については、もう少し具体的に書いてもよい。たとえば「5-1-4」で触れている幕張のコンベンション機能は「5-1-2」にも関係するし、成田とのアクセスやメッセの活用も重要。	4 (1) イ (イ)
64	轟部会長	たとえば幕張などは、今ある財産の活用という意味で、具体的に書けるものは「書いていただければと思う。	1 (3)
65	木村委員	「5-1-3」について、花のあふれるまちづくりの継続が今後も重要であり、追加すべき。	4 (1) ウ
66	木村委員	「5-1-3」で都市イメージ向上のためのPRを挙げているが、受入れ体制の整備が書かれておらず、追加してほしい。幕張新都心にも中国・韓国の観光客が増えているが、以前と違い英語が話せない人も来るようになっており、福岡のように、中国語や韓国語の看板があってもよいのではないか。	4 (1) エ (ウ)
67	木村委員	「5-1-4」について、交流人口の増加による地域活性化に触れているが、現基本計画に基づいて作られている二つのマスタープラン(観光コンベンション振興計画、シティセールス戦略プラン)の見直しが必要であり、その点についても記述すべき。	4 (1) エ (ア)
68	木村委員	「5-1-4」について、地域経済の活性化と観光は密接に連動しており、交流人口の増加に伴う地域経済の活性化についても触れてほしい。	4 (1) エ (イ)
69	花澤委員	地域経済の活性化には企業誘致や新規事業の支援などにより雇用の場をつくるのが大切であることから、「5-2」の中に企業誘致を入れるべき。	4 (2) イ
70	花澤委員	観光振興などにより金を落とすしくみが必要であり、「5-2」に記載すべき。	4 (2) ウ
71	金谷委員	雇用や収入安定、また、従来型の産業がアジアへシフトしていく中で、市民の活力と未来を託せる産業や新事業の創出をもっと強調すべきであり、「ひとが集り、魅力と活力に溢れるまち」を感じさせる、或いは「何かやりそうだ、力が籠っている」と感じさせるような記述を提案します。 例えば、 ・ 「産業振興戦略」の内容や狙い、「ビジネス支援センター」の重要な意義、特徴などを明示する。 ・ 科学都市戦略は「科学技術都市戦略」として、その意義、内容に言及し研究開発型の都市へ向かう強いメッセージを発する。 ・ 医療・福祉、ICT、環境・エネルギー、高度製造技術など、知識集約の先進技術への強い姿勢を述べる。	4 (2) エ
72	金谷委員	産業の振興、新事業の創出においても、「市民参加・協働の推進」を推進していくことの記述を提案します。 ・ 幕張新都心の企業交流や科学都市推進、国際企業交流などの活性化に、或いは市政のIT化推進や医療・福祉、更にベンチャーなどへの木目細かな支援に、経験と知見を有した市民の参加や協働を推進していく記述。 ・ 持てる知識を生かした社会貢献に意欲を持つシニア層やボランティア、NPOなどが、産業振興や新事業創出にも活動していける環境(例えば幕張新都心産業コミュニティ、ICTコミュニティ、医療機器コミュニティなどの産業テーマ別コミュニティ)を推進していく記述。	4 (2) オ
73	轟部会長	千葉市の特性として、先進的な取り組みやモデル事業といった視点も重要。	1 (3)
74	猿田委員	「5-2-1」の2項目目で、発展著しい中国などへの企業進出を支援するため、「JETROと連携して支援します」という記述を追加しては。	4 (2) カ
75	伊東委員	産業立地については、記述のボリュームが少ない。 新産業の創出について「5-2-2」として別立てにいただいたのは、地元の銀行としてはありがたいが、起業がリスクを伴う中で、どこの自治体でもテーマとして挙げていることから、待ちの姿勢ではなかなか難しい。「5-2-5」で雇用を生み出す観点からも、「日本一起業しやすいまち」を構築するくらいの意気込みでやる必要がある。各市の状況を見ながら積極的に取り組んでほしい。	4 (2) キ (ア)

千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
76	金谷委員	日本の産業の状況は変わりつつある。30年前のアメリカも同様であり、当時、従来型の産業は年に100万人の雇用が減り、逆にベンチャーで年に300万人の雇用を生み出した。 千葉市でも、これまで恩恵を受けてきた素材産業が、次第にアジアに移っていくと考えられ、状況が大きく変わるという時代認識や危機感を持つべき。 現状の取組みはなかなかうまくいっておらず、新たな産業に変わるんだという強い意志が必要。 国がふらふらしている中で、千葉市が日本一であり、引っ張っていくという気持ちを感じられるような記述が必要。	4 (2) キ (イ)
77	猿田委員	「5-2-2」に千葉大など、大学についても入れたほうがよいのでは。	4 (2) キ (ウ)
78	轟部会長	「5-2-3」などは、ボリュームも少なくうすい印象なので、もう少し書き込めれば書いてほしい。	4 (2) ク
79	鵜澤委員	「5-2-5」について、雇用の現状として、勤労者の可処分所得が減っており、失業率も改善されていない。非正規社員が4割を占め、200万円以下の勤労者が増えている。このような中で生活保護世帯が増加しており、このままいくと、働く人が減り、市の税収もますます厳しくなる。 雇用は市の財政に大きくかかわっており、働く者が夢を持てるような一歩踏み込んだ取組みを書けないか。	4 (2) ケ (ア)
80	猿田委員	農商工連携について、「5-3」のどこかに入れたほうがよいのではないかな。	4 (3) エ
81	西山副部会長	都市農業で掲げている三つの柱(「5-3-1」～「5-3-3」)は、国の方針に従った一般的な柱であるが、千葉県がトップレベルの農業県であり、その中で千葉市が重要な位置を占めており、都市資源と農業資源のバランスのとれた市であるという特性を強調する柱立てが必要がある。	4 (3) ア
82	西山副部会長	農業の実態は、統計的には右肩下がりであるが、「市民農業」という点で新しいものが生まれてきており、市民を中心とした多様な農業の実現に目を向ける必要がある。原案では「交流」の部分だけが市民との関わりで書かれているが、耕作放棄地をどうにかしたいなど、交流以上のものを市民は求めており、「ユニバーサル農業」も千葉市から出るなど、現場レベルでは動いている。このような動きの受け皿になるようなものを「5-3」に記述してほしい。	4 (3) イ
83	轟部会長	総論部会でも、右肩下がりの中で夢のある内容が求められており、千葉市における先進的あるいは特徴的な取組みがあれば、育成という意味も含めて記述してほしい。	1 (3)
84	斉藤委員	「5-3」について、書いてあることは理想的だが、裏付けや具体性が欠けているため、本当にできるのか疑問である。もう少し具体的な内容に一歩踏み込んで書いてほしい。	4 (3) ウ
85	斉藤委員	「5-3」について、市の半分が調整区域というと、豊かな田園風景をイメージすると思うが、実態として耕作放棄地が問題となっており、現状と課題も含めて、これへの対応が書かれていない。	4 (3) ウ
86	斉藤委員	「5-3-1」の地産地消の状況について、たとえば学校給食でどの程度普及しているのか、市民はわかっているのか。	4 (3) ウ
87	斉藤委員	経営体の育成については、高齢化が進むと、農地が確保できない農家が出てくる。資金も農地もない新規就農者が大規模経営をやろうとしても難しい。 農地の集約化が必要であり、JAも取組みを進めているが、大口経営は家族では無理であり、法人化への移行が必要な時期が迫っている。そのため、法人化への支援が必要だが、「5-3-2」に書かれていない。	4 (3) ウ
88	斉藤委員	「5-3-3」について、方向性1でも述べたが、市民農園・観光農園を普及させるためには都市計画上の規制緩和をやらないと厳しい。	4 (3) ウ



千葉市新基本計画(原案)に対する意見【第1部会】(第1回及び第2回第1部会における意見)

資料2

No.	委員	意見	答申(案)たたき台への反映
①	小河原委員	施策を実現するための予算が不明確である。P14「財政状況に関する基本認識」があるが、これだけでよいのか。施策展開と関連付けて書いた方が親切だと思う。	記載しない (会議で了承済)
②	金谷委員	東大の緑地植物実験所は大いなる財産であり、なくなるのは絶対避けたい。「1-1-1」に保全を書き込むべき。	記載しない (会議で了承済)
③	轟部会長	「1-3」「1-4」について、千葉市で何ができるかという課題はあるが、地域でできることもあるだろう。	記載しない (No.28花澤委員の意見へのコメント)
④	春川委員	最近、ごみに関する指導や罰則などが厳しくなっているが、急に対応できない人もいますので、多少は間違えてもいいような、あたたかい市のままでいてほしい。「1-4-2」の2項目目について、家庭ごみの有料化は、計画期間中は「検討」にとどめてほしい。	記載しない (原案通りにして欲しいとの意見)
⑤	櫻井委員	飛躍するかも知れないが、横浜市では危機管理室を設置しているが、千葉市では難しいのか。	記載しない (会議で了承済)
⑥	猿田委員	「4-3-2」で「放射・環状による適切な道路ネットワーク」とあるが、具体的なイメージを教えてください。また、図面があれば、あとで教えてください。	記載しない (会議で了承済)
⑦	小河原委員	福祉の分野に関連して、おそらく市でも一部やっていると思うが、一人暮らし高齢者の安否確認のための取組みも、「4-3-4」にドッキングしてくるのかどうか。	記載しない (No.55金谷委員への質問)
⑧	猿田委員	カジノについて全く書かれていないがいかがか。	記載しない (会議で了承済)
⑨	花澤委員	「5-2-1」に産業の振興、「5-2-3」に商業・サービス産業の振興、「5-3」に都市農林業とあり、産業の分け方に違和感があるが、考え方について、教えてください。	記載しない (会議で了承済)